

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成31年1月17日(2019.1.17)

【公表番号】特表2017-537984(P2017-537984A)

【公表日】平成29年12月21日(2017.12.21)

【年通号数】公開・登録公報2017-049

【出願番号】特願2017-550464(P2017-550464)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)  
 A 6 1 K 45/06 (2006.01)  
 A 6 1 K 31/685 (2006.01)  
 A 6 1 K 31/688 (2006.01)  
 A 6 1 K 31/4436 (2006.01)  
 A 6 1 K 31/203 (2006.01)  
 A 6 1 K 31/232 (2006.01)  
 A 6 1 K 31/07 (2006.01)  
 A 6 1 K 31/7028 (2006.01)  
 A 6 1 K 35/17 (2015.01)  
 A 6 1 P 1/16 (2006.01)  
 A 6 1 P 31/14 (2006.01)  
 A 6 1 P 31/20 (2006.01)  
 A 6 1 P 43/00 (2006.01)  
 A 6 1 P 25/00 (2006.01)  
 A 6 1 P 3/10 (2006.01)  
 A 6 1 P 29/00 (2006.01)  
 A 6 1 P 9/10 (2006.01)  
 A 6 1 P 37/02 (2006.01)  
 A 6 1 P 37/06 (2006.01)  
 A 6 1 P 19/02 (2006.01)  
 A 6 1 P 21/02 (2006.01)  
 A 6 1 P 1/04 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 45/00  
 A 6 1 K 45/06  
 A 6 1 K 31/685  
 A 6 1 K 31/688  
 A 6 1 K 31/4436  
 A 6 1 K 31/203  
 A 6 1 K 31/232  
 A 6 1 K 31/07  
 A 6 1 K 31/7028  
 A 6 1 K 35/17 Z  
 A 6 1 K 35/17 A  
 A 6 1 P 1/16  
 A 6 1 P 31/14  
 A 6 1 P 31/20  
 A 6 1 P 43/00 1 2 1  
 A 6 1 P 43/00 1 1 1  
 A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 3/10  
 A 6 1 P 29/00  
 A 6 1 P 9/10  
 A 6 1 P 37/02  
 A 6 1 P 37/06  
 A 6 1 P 19/02  
 A 6 1 P 29/00 1 0 1  
 A 6 1 P 21/02  
 A 6 1 P 1/04

【手続補正書】

【提出日】平成30年11月30日(2018.11.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

対象における少なくとも1つの炎症性病態を緩和または予防する薬剤を製造するために N K T - 2 アクチベーターを用いる方法であって、前記薬剤は、前記対象の I I 型 N K T 細胞を活性化させるために十分な量の N K T - 2 アクチベーターを含む。

【請求項2】

前記炎症性病態が、脂肪肝疾患、アルコール誘発性肝炎、非アルコール性脂肪性肝炎、自己免疫性肝炎、肝硬変、非アルコール性脂肪肝疾患、線維症、原発性硬化性胆管炎、原発性胆汁性硬化症、劇症肝硬変、特発性肝炎、ウイルス誘発性肝炎（A型、B型、C型およびその他）、肝胆道癌と関連する炎症性肝炎、多発性硬化症、1型糖尿病、虚血再灌流傷害、実質臓器移植、全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、筋萎縮性側索硬化症、および炎症性腸疾患（クローン病および大腸炎）からなる群から選択される、請求項1に記載の方法。

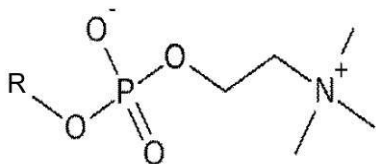
【請求項3】

前記薬剤が、さらに前記対象に対する I 型 N K T 細胞の活性化を阻害するために十分な量の R A R アゴニストを含むことを特徴とする請求項1または2に記載の方法。

【請求項4】

前記 N K T - 2 アクチベーターが以下の化学構造：

【化1】



(式中、Rは、C<sub>1</sub>～C<sub>30</sub>アルキル、C<sub>1</sub>～C<sub>30</sub>置換アルキル、C<sub>1</sub>～C<sub>30</sub>アルケニル、C<sub>1</sub>～C<sub>30</sub>置換アルケニルおよびC<sub>1</sub>～C<sub>30</sub>アルキニルからなる群から選択される)を有する、請求項1～3のいずれか一項に記載の方法。

【請求項5】

前記薬剤が、経口投与用に構成される、請求項1～4のいずれか一項に記載の方法。

【請求項6】

前記 N K T - 2 アクチベーターが ミルテホシン、またはミルテホシンアナログを含む、

請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 7】

前記 N K T - 2 アクチベーターが、リゾホスファチジルコリン ( L P C )、L P C のアナログ、リゾ血小板活性化因子 ( L P A F )、リゾスフィンゴミエリン ( L S M )、または L S M のアナログを含む リン脂質を含む、請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 8】

前記 L P C が L P C ( C 1 8 : 0 )、L P C ( C 1 6 : 0 )、L P C ( C 1 8 : 1 ( 9 Z ) )、L P C ( C 1 8 : 1 ( 1 オレイル ) )、または L i g n A ( L P C ) ( C 2 4 : 0 ) の 1 つを含む、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 9】

前記ミルテホシンアナログが表 2 . 1 または表 2 . 2 からの化合物を含む、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 10】

前記 N K T - 2 アクチベーターがミルテホシンを含む、請求項 1 ~ 9 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 11】

対象における I 型 N K T 細胞媒介組織損傷を阻害する 薬剤を製造するために N K T - 2 アクチベーターを用いる方法であって、前記薬剤は、前記対象に対し、有効量の N K T - 2 アクチベーターを含む。

【請求項 12】

前記対象が、脂肪肝疾患、アルコール誘発性肝炎、非アルコール性脂肪性肝炎、自己免疫性肝炎、肝硬変、非アルコール性脂肪肝疾患、線維症、原発性硬化性胆管炎、原発性胆汁性硬化症、劇症肝硬変、特発性肝炎、ウイルス誘発性肝炎 ( A 型、B 型、C 型およびその他 )、肝胆道癌と関連する炎症性肝炎、多発性硬化症、1 型糖尿病、虚血再灌流傷害、実質臓器移植、全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、筋萎縮性側索硬化症、および炎症性腸疾患 ( クロウン病および大腸炎 ) からなる群から選択される 炎症性病態を有する、請求項 1 1 に記載の方法。

【請求項 13】

前記 N K T - 2 アクチベーターがミルテホシン、ミルテホシンアナログ、またはリン脂質の少なくとも 1 つを含む、請求項 1 1 または 1 2 に記載の方法。

【請求項 14】

前記リン脂質がリゾホスファチジルコリン ( L P C )、L P C のアナログ、リゾ血小板活性化因子 ( L P A F )、リゾスフィンゴミエリン ( L S M )、または L S M のアナログを含む、請求項 1 3 に記載の方法。

【請求項 15】

前記 N K T - 2 アクチベーターがミルテホシンまたはミルテホシンアナログの少なくとも 1 つを含む、請求項 1 1 または 1 2 に記載の方法。